

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501053		
法人名	有限会社 時輪		
事業所名	グループホーム のんきさん		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区沼本町2-8-37 (電話)093-474-7727		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成19年12月19日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人・非常勤 2 人・常勤換算	7.02

(2)建物概要

建物形態	併設(単独)	(新築)改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有)無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.6 歳	最低	76 歳	最高	87 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡林医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

収穫を終えた畑が目の前に広がる住宅地の小高い丘の一角に「グループホームのんきさん」がある。玄関を入ると、利用者の寛ぎの場となっているソファがあり、人懐っこい子犬が出迎えてくれる。車椅子がすれ違うことが出来る程広いまっすぐに伸びた廊下は開放的であり、ホーム全体が床暖房で足元が暖かく、心地よく過ごせる環境が整えられている。家庭的なオープンキッチンのある食堂からは、利用者や職員の歌声や笑い声が聞こえ、和やかな団欒がある。オーナーの介護に対する熱い気持ちを理解し、実践している職員の質の高さを感じられる。開設して6年、地域の方と共に畑作りをする等、交流も密になっていて、利用者や家族、地域住民からの信頼が厚いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員とオーナーが目標に向かって努力した結果、前回の要改善点の4件中3件が改善されている。「入居者の金銭管理」については金銭出納帳の書式を揃え、管理者のチェックサインと家族のサインの欄を設けている。「災害対策」については2~3ヶ月に1回、夜間を想定した避難訓練を夜勤者のみで行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の一人ひとりが自己評価をし、記録も存在している。この熱心な取り組みから、職員一人ひとりの質の高さを垣間見ることができる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2~3ヶ月に1回開催され、活動報告のほかに出席者からは活発な意見や要望が出て、検討事項についても経過報告を一つひとつ積み上げていく建設的な会議となっている。会議の結果も必ず職員に伝達し、サービスの向上に繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	手作りの意見箱が玄関に置かれている。家族からの意見は活発に出てくる。時には、数時間かけて話し合うこともあり、利用者や家族の不安を時間をかけて解決している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し、回覧板や市報を利用者と職員で届けるなど、地域の中に溶け込んだ暮らしになっている。地域の祭りや運動会などへも積極的に参加し、地域の中で頼りにされる存在になっている。また、地域の方と一緒に畑を作り、しっかり地域に密着したグループホームになりつつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とのふれあいを大切に、心やすらぐ笑いの絶えない、より家庭的なホームをめざす」という、地域の中で安心した暮らしを目指したホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、ミーティング、セルフチェックにおいても理念を確認し、共有、実践を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、回覧板や市報を利用者と職員が一緒に届けるなど、地域の中の一員としての暮らしが営まれている。地域の祭りや運動会なども積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に繋げている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月に1回開催され、出席者からは活発な意見や要望が出て、話し合いにより一つひとつ積み上げていく建設的な会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、包括支援センターの職員に参加してもらい、市との関係作りを図っている。		今後は市の職員研修、介護相談、家族教室、認知症の勉強会など、市と協働事業の取り組みを進めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に、成年後見制度を利用しているケースがあるため、随時職員に説明し、理解してもらい、支援に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「のんきさん通信」で、日々様子を家族に報告している。金銭管理についても出納帳をつけ、管理し、家族の来所時にサインをもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族会を設け、介護相談員の訪問を月2回受け入れ意見が出しやすい場面を作っている。利用者が外部に声を表出する機会を作っている。意見、苦情の申し出があった場合は、その都度対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努力しているが、やむ終えず代わる場合は利用者のダメージを防ぐため引継ぎ期間などの配慮をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	資格や経験に関係なく、まず熱意とやる気を重視した採用になっている。また、事業所で働く職員についても、生き生きと向上心を持って勤務できるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	オーナーは、利用者に対する人権尊重の意識を持って職員に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、内部勉強会、グループホーム協議会の研修、市の研修等を受ける機会の確保がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に入会し、職員同志で他のグループホームの見学会を行うなど、同業者との交流を深め、介護サービスの質の向上に繋げている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で入居してもらうために、1週間の体験入居を実施し、少しずつ馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の一員として、掃除機かけ、食器洗い、洗濯物たたみ、ガーデニングなど役割を担って頂き、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望を本人や家族から細かく聞き取り、本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、関係者と話し合い、本人がより良く暮らすための課題を掘り起こし、ケアプランを作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回行っている。本人、家族、関係者で話し合って見直しを行っている。状態が変化した場合は、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、美容院の送迎、レクレーション、ドライブなど、利用者や家族の要望に応じてそれぞれの満足度を高める様努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞きながら、かかりつけ医や提携病院と併用し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては現在考えていないが、本人や家族とも話し合い納得のうえ、かかりつけ医の指示を受けながら医療機関との連携を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや勉強会時に、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように、利用者は人生の先輩であるという尊敬の気持ちで対応を心がけるように確認しあっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望をきめ細かく聞き取り、職員全員で共有し、利用者がその人らしく暮らせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や配膳、後片付けなど、利用者と共に、利用者と職員が同じテーブルを囲みながら、食事が楽しみなものになるよう努めている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日まで毎日入浴できる体制である。食後、寝る前など、一人ひとりの入浴したいタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の散歩、掃除機かけ、洗濯物たたみ、食器洗い、ガーデニングなど、得意分野を活かして、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。また、遠出の外出や地域の行事参加など、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその日の希望に沿って、郵便局や銀行に出かけたり、犬の散歩、地域の方と一緒に畑仕事をしたりして、戸外に出ることを積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、自由な暮らしが出来るよう支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に消防訓練を行っている。		地域の住民に協力してもらい、夜間を想定した避難訓練を行うことが望まれる。また、災害に備えて非常食や毛布の備蓄も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェック表に記録し、職員が利用者一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幅の広いまっすぐの廊下で突き当たりは非常口となっていてとても開放的である。廊下に置かれたソファでは、利用者が人形を囲んでおしゃべりする姿が見られる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの、好みのものを持ち込み、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		